

EALGA

倉庫事業者預託モデル(JEITA-VMI)

導入ガイド活用と実用化事例

JEITA
EC CENTER
EALGA

— 目 次 —

- ・ JEITA—VMI概要説明
- ・ JEITA—VMI導入ガイドの取り組み
- ・ JEITA—VMI実用化事例
- ・ 今後の予定

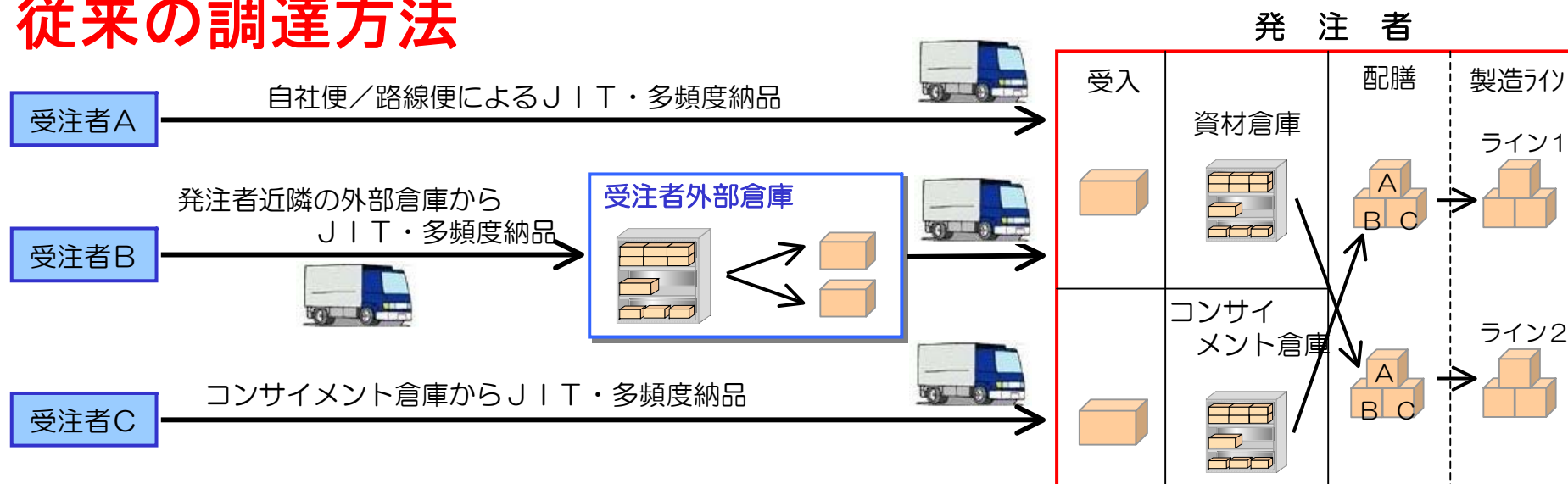
JEITA－VMI概要説明

- ・ロジスティックプロセスのトレンド
- ・JEITA－VMI開発の目的
- ・JEITAビジネスモデルレイヤー
- ・JEITA－VMIビジネスプロセス

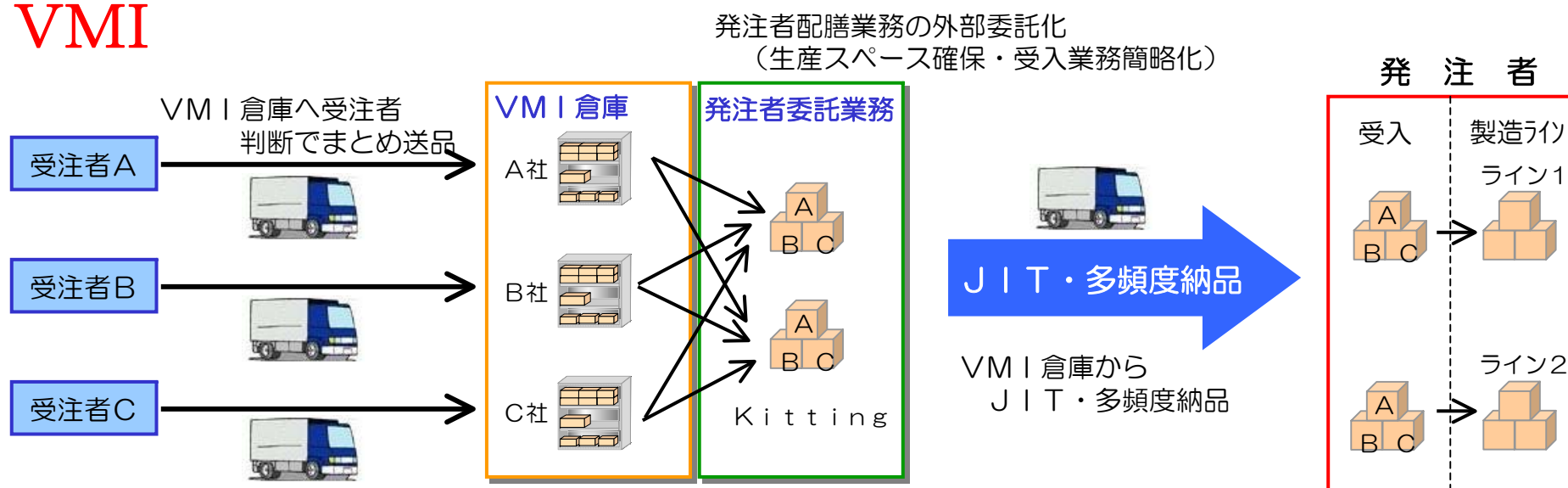
ECALGA2006Aにて正規化予定

ロジスティックプロセスのトレンド

従来の調達方法

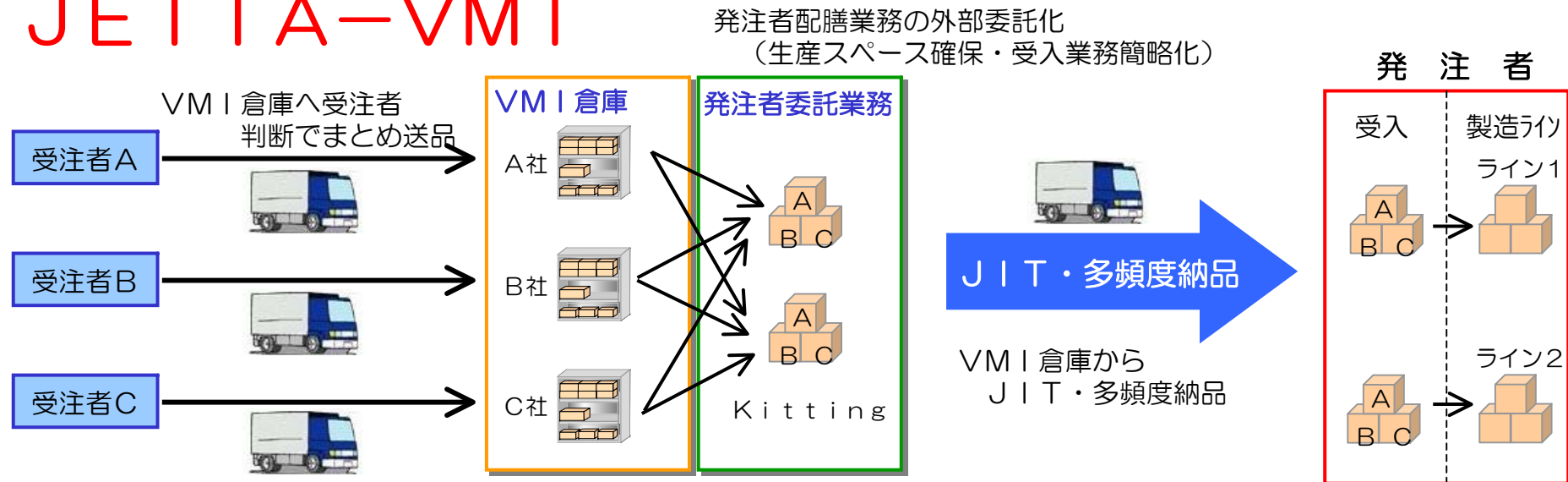


VMI



JEITA—VMI開発の目的

JEITA—VMI



- ①発注者の短納期・多頻度調達の実現と
受入れ業務の簡略化および在庫の削減
- ②受注者の短納期対応と物流作業の効率化
- ③実装対象の拡大（物流事業者との業際標準）

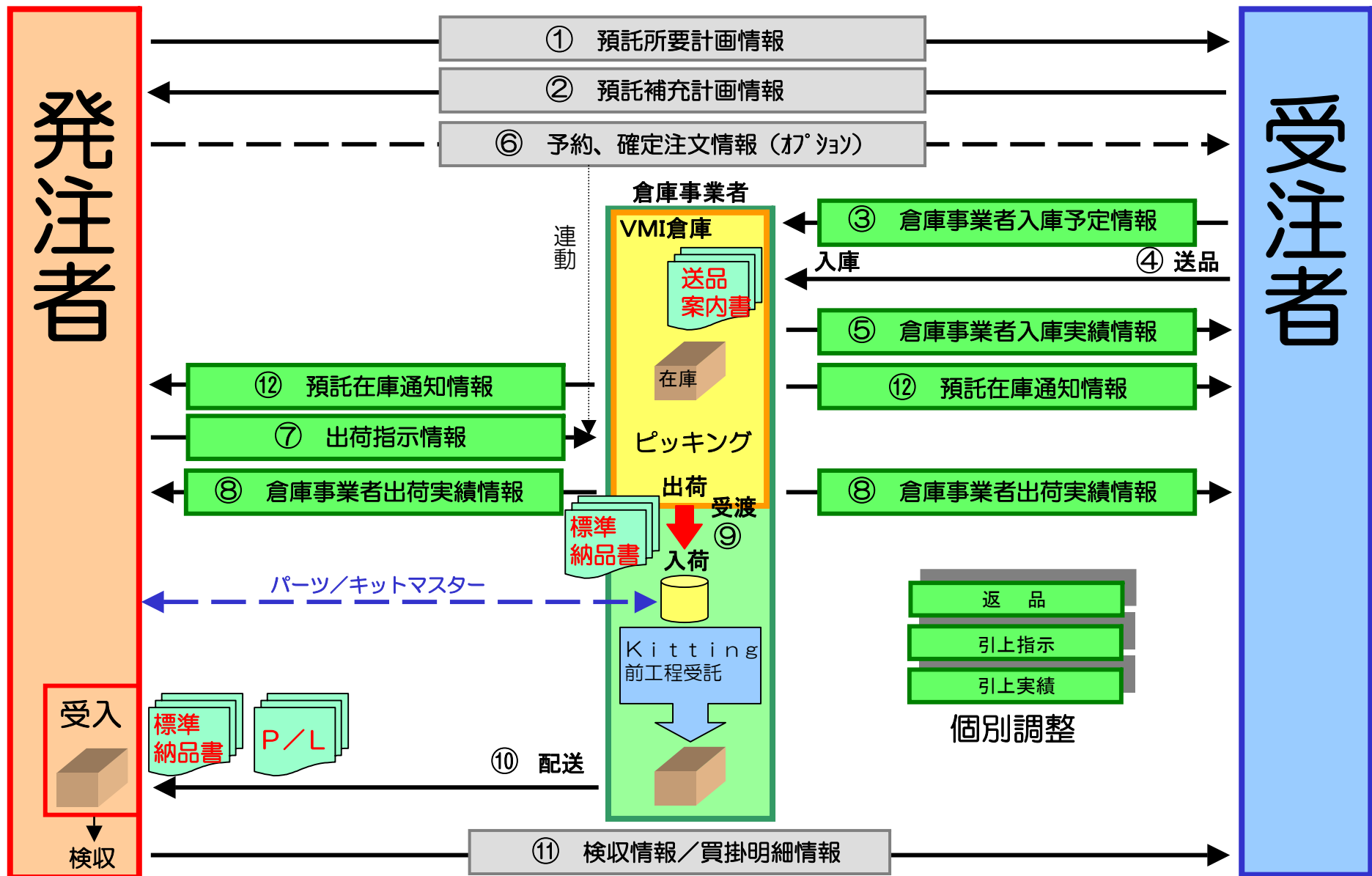
JEITAビジネスモデルレイヤー(受発注・出荷受入)

		計画情報	個別契約		出荷業務				在庫管理		
		所要供給	予約注文	確定注文	出荷指示	出荷タイミング	受注者業務の委託先	受渡ポイント(所有権移転)	受注者在庫の預託先	倉庫事業者の使用	倉庫選定
通常取引	納品代行	○	△	○	×	確定注文の納期 (必要に応じて、受注者から倉庫への出荷依頼あり)	受注者 →倉庫事業者	発注者 指定場所	倉庫事業者 (外部倉庫)	○	受注者 判断
	ジャスト・イン・タイム (JIT)	○	△	○	×	確定注文の納期	—	発注者 指定場所	—	×	—
	所要計画・予約注文を 活用した協業モデル ／所要計画を活用し た協業モデル	○	○ ／ ×	○	×	確定注文の納期	—	発注者 指定場所	—	×	—
預託取引	コンサイメント	○	△	△	×	発注者判断	受注者 →発注者	倉庫内に設定	発注者	×	—
	コンサイメント (外部倉庫)	○	△	△	○	倉庫事業者へ出荷指示	受注者 →発注者 →倉庫事業者	倉庫内に設定	発注者	○	発注者 判断
	倉庫事業者預託 (JEITA-VMI)	○	△	△	○	倉庫事業者へ出荷指示	受注者 →倉庫事業者	倉庫内に設定 (又は倉庫 出し時点)	倉庫事業者 (受注者 共用倉庫)	○	発注者 指定

JEITAビジネスモデルレイヤー（預託取引）

ビジネスの視点	倉庫事業者預託 (JEITA-VM1)	コンサイメント	コンサイメント(外部倉庫)
在庫管理	<ul style="list-style-type: none"> ①在庫預託先：倉庫事業者 ②受注者は、受注者資産である物品を発注者の指定した倉庫事業者へ直接預託する ③受注者主導による在庫管理 入庫・在庫管理方法は受注者・倉庫事業者で協議 	<ul style="list-style-type: none"> ①在庫預託先：発注者 ②受注者は、受注者資産である物品を発注者へ預託する ③発注者主導による在庫管理 入庫・在庫管理方法は発注者・受注者で協議 	<ul style="list-style-type: none"> ①在庫預託先：発注者 ②受注者は、受注者資産である物品を発注者へ預託するが、発注者は、預かり在庫の管理業務を倉庫事業者に委託する ③発注者主導による在庫管理 入庫・在庫管理方法は発注者・受注者で協議
出荷業務	<ul style="list-style-type: none"> ①出荷業務：倉庫事業者による代行 ②受注者の代わりに、発注者からの出荷指示に基づき、倉庫事業者が出荷する 	<ul style="list-style-type: none"> ①出荷業務：発注者による代行 ②受注者の代わりに、発注者に預託された物品を発注者自らが出荷する 	<ul style="list-style-type: none"> ①出荷業務：発注者による代行 ②受注者の代わりに、発注者に預託された物品を発注者自らが出荷するが、業務そのものは発注者から倉庫事業者に委託する
取引当事者	<ul style="list-style-type: none"> ①商流：発注者と受注者 ②物流：発注者と受注者と倉庫事業者 ③物流においては倉庫事業者を第3のプレーヤーとして定義 	<ul style="list-style-type: none"> ①商流：発注者と受注者 ②物流：発注者と受注者 ③取引を発注者と受注者の2者間で定義 	<ul style="list-style-type: none"> ①商流：発注者と受注者 ②物流：発注者と受注者 ③倉庫は発注者に帰属するものとし、取引を発注者と受注者の2者間で定義

JEITA-VMIBiznessプロセス



JEITA－VMI導入ガイド取り組み

- JEITA－VMI 導入ガイドの目的
- JEITA－VMI 導入ガイド検討体制
- JEITA－VMI 導入ガイドの構成
- JEITA－VMI 導入ガイド活用術

JEITA-VMI導入ガイドの目的

ECAALGA取引辞書（標準書）をベースに、発注者・受注者・倉庫事業者それぞれの利用者の立場で詳細に解説したガイドラインをまとめることで、JEITA-VMIのスムーズな導入を推進

- 1) JEITA-VMIの説明
- 2) 発注者の立場での対応
- 3) 受注者の立場での対応
- 4) 倉庫事業者の立場での対応
- 5) 本番にむけての準備
- 6) JEITA-VMIで利用するラベル・帳票類

JEITA－VMI導入ガイド検討体制

JEITA／物流事業者

実務担当者による合同検討会の開催

2005年 4月より

JEITA ECセンター
出荷受入業務専門委員会

JILS

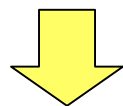
日本物流団体連合会
／物流EDIセンター

JEITA－VMI導入ガイドの構成

	発注者 (セットメーカ)	受注者 (部品メーカ)	倉庫事業者
I部 概要			
II部 発注者編			
III部 受注者編			
IV部 倉庫事業者編			
V部 共通編			
VI部 資料編			

導入ガイド活用のポイント

- 1) 発注者・受注者・倉庫事業者の相互理解促進
- 2) 実施までのマイルストーンを例示
- 3) 実施までの調整事項を例示



JEITA－VMIのスムーズな導入を推進

JEITA－VMI導入ガイド活用術1

1) 発注者・受注者・倉庫事業者の相互理解促進

①ベースとなる考え方

発注者は、受注者と導入効果を共有し更に受注者の導入効果を積極的に提案することによって、Win & Winの関係を築くことを目指す。（発注者主体）

②倉庫事業者の位置づけ

業務を構成する当事者（業務代行者）として定義、個々の売買（受発注・検収）においては発注者／受注者のみが当事者となる。

JEITA－VMIにおけるお互いの位置付け／業務内容／準備事項を共有化するバイブルとして

2) 実施までのマイルストーンを例示

- ① EC標準が可能にしたVMI実装までの全過程を例示
新しいビジネスモデルの構築は、システムインフラの構築等大きな投資を伴うばかりでなく、関係する発注者受注／受注者／倉庫事業者を巻き込んだ大きなプロジェクトとなる。従って対象事業所の選定や費用対効果、大日程等を十分に検討し経営トップを含めた明確なプロジェクト遂行の意思決定を行う必要がある。

JEITA－VMI導入に向けた計画立案の参考資料として

JEITA－VMI導入ガイド活用術1

セツトメーカー側のマイルストーンの例

項番	内容	スケジュール							備考
		1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	
1	導入計画	■							
	計画の立案と社内意志決定	■							
	対象事業所（工場）選定	■							
	検討チームの設置	■							
	倉庫事業者の選定	■							
	受注者の選定	■							
	VMI対象物品の選定	■							
	マイルストーン作成	■							
	説明会の実施	■							
2	導入準備		■						
	受注者との各種調整 （情報種・手段、対象物品など）		■						
	倉庫事業者の各種調整 （情報種・手段、配送条件など）		■						
	必要器材の確認		■						
	システムインフラの準備		■						
3	導入実施						■		
	VMI契約の締結						■		
	疎通テスト						■		
	連動テスト						■		
	本番実施（トライアル段階）						■		
	本番実施（本番段階）						■		

3) 実施までの調整事項を明確化

① EC標準をベースにしたVMI実装までの課題

発注者は、自社内の検討のみならず受注者／倉庫事業者との調整事項を明確にし主体的に導入プロジェクトを推進して行くことが求められる。また最終的に自社のメリットだけに捉われず受注者／倉庫事業者の視点にたった検討も充分に行い、発注者／受注者／倉庫事業者、各々がメリットを享受できるビジネスモデルを構築することが必要となる。

JEITA－VMI導入に向けた社内／社外準備
事項の把握と進捗管理資料として

JEITA－VMI導入ガイド活用術2

セットメーカー側の業務内容確認リストの例

リスト名	区分	詳細内容	検討結果
セットメーカー側の倉庫業務内容	出荷	部品別の出荷指示件数および物量の把握 出荷指示の内容の確認	
	受託業務の内容確認とマニュアル化	キitting、バケツ詰め替え、受入れ業務など、受託する業務の内容の確認、取扱い数量の把握	
	配送業務内容の確認とマニュアル化	受入れ側の工場と協議し、納入頻度、納入時刻、納入数量などの取決めが必要	
	データ処理	情報種、送受信タイミングと頻度、帳票・ラベル類の出力	
セットメーカー側の倉庫スペース・人員	倉庫（作業場）レイアウト	セットメーカーより受託する各種業務別の作業場スペースとレイアウトを検討	
	受託業務別の人員配置	受託業務別の取扱い件数と所要時間より概算	
	配送業務	受託業務別の取扱い件数と物量および納入頻度などより概算	
配送条件	納入場所の確認	ひとつの工場でも納入場所が複数箇所となる場合があり、事前に工場の位置や納入場所の位置を確認	
	納入頻度と積載量の確認	JITに対応した配送便の運行ルート、運行ダイヤや仕立てるトラックの決定のため、納入頻度、納入時刻、納入数量を確認	
	納入方法の確認	通い箱の仕様： バケツ、トレイなど 搬入機材： パレット、ボックスパレットなどのサイズ、材質、入れ個数などの取決め	
	その他付帯業務内容の確認	通いバケツや搬入機材の回収および、かんばん引き取りなどの付帯業務	

JEITA－VMI導入ガイド活用術3

部品メーカー側の業務内容確認リストの例

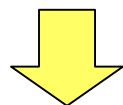
リスト名	区分	詳細内容	検討結果	
部品メーカー側のVMI 倉庫業務内容	部品メーカー	部品メーカー数と所在地、入庫元（工場・倉庫など）、および担当者などの確認		
	部品	取り扱う部品の品番一覧と部品形状（サイズ、重量を含む）の確認		
	入庫	部品別の入庫・出荷件数および物量の把握 部品別の入庫作業の把握 部品現品の確認方法と添付伝票の確認		
	保管	部品別の在庫量、保管条件の把握		
	出荷	部品別の出荷作業（ピッキング～納品書発行～出荷梱包）の把握		
	データ処理	情報種・仕様、送受信タイミングおよび頻度		
部品メーカー側の倉庫スペース・人員	VMI倉庫レイアウト	保管場所	部品メーカー別保管場所の区分と在庫量に基づくスペース割り付け	
		荷役場所	入庫、出荷仮置き、仕分場などのスペース	
		データ処理室	データの送受信、各種伝票・ラベル発行等の機器設置のスペース	
		その他	ISOなどから判断し必要とされるスペース	
	VMI倉庫業務工程別の人員配置	入庫・出荷作業人員	入庫・出荷のデータ件数および、物量より概算	
		データ処理人員	データ処理件数および、伝票・ラベルなどの発行件数より概算	
		その他の人員	管理者、窓口担当者など、必要と思われる人員	

JEITA-VMI導入ガイド活用術4

JEITA-VMI（倉庫事業者預託モデル）
ECALGA取引辞書（標準書）

+

JEITA-VMI導入ガイド



JEITA-VMI導入期間の短縮が可能

JEITA-VMI実用化動向

- シャープ株式会社

実用化（2005 / 9 / 12 ~）

JEITA-VMI実用化までの道のり

JEITA-VMI実用化Alliance

JEITA-VMI送品案内書（実物）

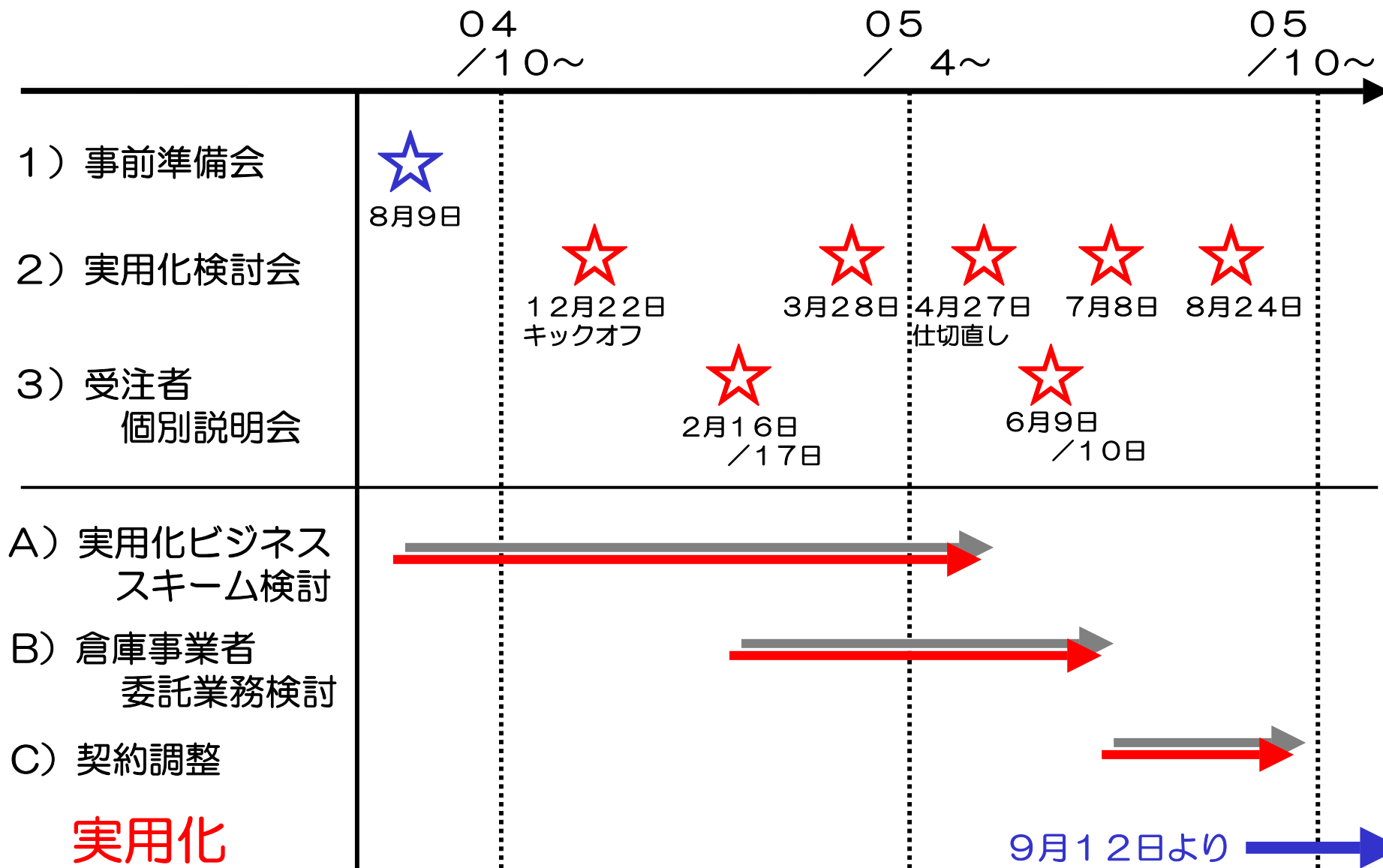
- 三菱電機グループ

JEITA-VMI検討（集中購買のVMI化）

2006年度より導入準備

（ベーシックEDI導入後）

シャープ(株)JEITA-VMI実用化までの道のり



シャープJEITA-VMI実用化Alliance



JEITA—VMI送品案内書(実物)

送 品 案 内 書	発注者 103120ME シャープ株式会社 AVシステム事業本部	入庫予定番号 K46293023001	1)	
	倉庫事業者 101383 アルプス物流羽生シャープVMI	発注者管理 No. K46293023	2)	
	発注者品名コード RCRSB0250GI	発注者品名 HC-4		
	受注者品名コード	ロット No.	単位 PC	
	送品日 05-06-24	入庫予定日 05-06-26	送品数量 1,250	3)
	受注者用備考 K46293023	備考欄	入庫数量	
	受注者 京セラ株式会社	(Z)K46293023001		
	E CALGA送品案内書			

入庫受付票

(3N)3K46293023001 1250

(3N)4RCRSB0250 1250

(3N)5K46293023

倉庫事業者名称 アルプス物流羽生シャープVMI [入庫]
入庫数量

E CALGA送品案内書 用紙提供：小林記録紙

受注者から倉庫事業者（VMI倉庫）への送品時に使用

標準納品書との違い

- 1) 入庫予定番号
- 2) 倉庫事業者
- 3) 入庫予定日／送品数量

今後の予定

- 1) JEITA-VM I 正規化
ECALGA2006A Rev-01
2006年
- 2) JEITA-VM I ベーシックEDI 開発
ECALGA2006A Rev-01
2006年
- 3) コンサイメント協業モデルとの一本化
預託取引の整理
2006通年活動

ECALGA